

自己評価結果公表シート(平成30年度)

ひまわり幼稚園

1、園の教育目標

子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、他者とのかかわりを積み重ねる経験の中でがんばる気持ち、達成する喜び、意欲的に生きる力を育てる

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ・ 評価結果から課題の設定、具体的な取り組みへと一連の流れを示し、課題・時期・時間・方法を明記する。
- ・ 主体的な活動を引き出す環境を評価スケールや講師を交え整える。
- ・ 1学期中に新たな教育要領を読み合わせ、園の理念を確認する。
- ・ 園児の状況、クラスの状態、保育目標について話し合い、こどもの育ちと保育目標のつながりを強める
- ・ 行事・行事準備を見直し、振り返りと準備の時間を作る。
- ・ 研修報告会を、研修後2週間以内に実施する。
- ・ 新年度前に安全マニュアルを確認し、実際の対応をシミュレートする。
- ・ H30年度中に保育室・園庭の清掃維持を行う基準としてのマニュアルを定める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

分類	平均点	課題項目
教育方針・指導計画・記録	56	園の教育方針(教育目標)を理解しているか 指導計画の「ねらい」や「内容」は幼稚園教育要領の精神を踏まえ自園の教育方針に従ったものになっているか 指導計画は、評価・反省に基づき見直しを行っているか
健康	61	子どもがのびのびと行動し、充実感が味わえるよう工夫しているか 子どもが進んで戸外での活動を楽しむ配慮や工夫がされているか 子どもが運動的な活動に限らず、さまざまな遊びの中で十分身体を動かすことができるよう援助や働きかけを行っている。
人間関係	66	子どもが自分で行動することの充実感を味わえるような援助を行っているか 相手の想いや気持ちに気づいていけるような援助や機会を設けているか 園生活における望ましい習慣や態度を身につけるための指導を行ったり機会を設けているか
表現	64	子どもの表現しようとする意欲を受け止め、また子どもがさまざまな表現を楽しむことができるように配慮しているか 子どもが生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりできるように工夫されているか 子どもが自由に音や動きで表現する機会が設けられているか 身体を使った様々な表現遊びがとりいれられているか
言葉	68	
環境	64	子どもがさまざまな異文化(国・人種・文化・言葉・行事など)を受け入れる配慮や環境が整備されているか 子どもの遊びや活動が発展するヒントとなる工夫や配慮がされているか
研修	44	園内研修等で自己の課題や園全体の課題について定期的に見直しや評価をしあい、保育の質の向上に努めているか 専門書や雑誌を読む等、保育技術を高めるための努力をし、習得したことを実際の保育に生かしているか
安全 衛生管理	51	園内や園庭の安全に対して、定期的に点検・改善を行っているか 緊急事態に対して敏速に対応できるようにしているか
家庭連携	59	

<p>学級運営</p>	<p>62</p>	<p>保育室は整理整頓が行きとどき、安全にも配慮した環境にしているか</p> <p>個々の子どもの心身の状況を把握したり配慮しながら保育をしているか</p> <p>指導計画(長期・短期)を振り返り、評価・反省を行うとともに、教師としての子どもへの関わり方なども日々振り返り、明日の保育へ生かせるようにしているか</p>
-------------	-----------	---

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	課題
<p>60</p>	<p>1 園の教育方針をふまえながら、指導計画を作成していない。指導計画の評価、反省が不十分である</p> <p>2 研修に参加しているが、それを保育の現場で生かし切れていない。また保育技術の向上のための努力・習得も不十分である。</p> <p>3 園内・園庭の点検が不十分である。また緊急時のマニュアルは作成されているが、あらゆる状況に対してはカバーしきれてはいない。</p> <p>4 アレルギーの子どもがすべての職員に認識されていない。個々の子どもの心身の状況の把握がむずかしい。</p> <p>5 子どもが進んで活動を楽しめるような工夫や配慮が、不十分であり子ども主体的に行動する充実感や異年齢児の活動、当番活動などで友だちと協力したり、一緒にしたりする活動が少ない</p> <p>6 子どもたちの発想や思いを受け止めて、活動につながっていない</p>

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
<p>1 園の教育方針をふまえながら、指導計画を作成していない。指導計画の評価、反省が不十分である</p>	<p>教職員全員で園の教育方針をもう一度確認しながら、共通理解をはかり、全員で話し合いながら指導計画を立てる。また週末・月末には充分におこなっていたのかの話し合いを重ねる。</p>
<p>2 研修に参加しているが、それを保育の現場で生かし切れていない。また保育技術の向上のための努力・習得も不十分である。</p>	<p>研修に参加した分野ごとに発表の場を設けたり、何か問題があった時にその分野の研修に行った保育者の話を聞いて取り入れる。</p>
<p>3 園内・園庭の点検が不十分である。また緊急時のマニュアルは作成されているが、あらゆる状況に対してはカバーしきれてはいない。</p>	<p>園庭、園舎の異常がないのかを常に意識し、確認し、報告を徹底する。点検のマニュアルも作成する。また地震、災害に限らず想定できる緊急時に対して、通報の仕方や報告・連絡方法・職員配置を定める。</p>
<p>4 アレルギーの子どもがすべての職員に認識されていない。個々の子どもの心身の状況の把握がむずかしい。</p>	<p>アレルギーの子どもの共通理解をはかり、職員全員で把握しておくようにする。登園時はいつもと様子がちがうかを必ず確認し、友達とのトラブルなどでとまどっているときはしっかりと受け止め、話を聞いたりして安心できるようにする。</p>
<p>5 子どもが進んで活動を楽しめるような工夫や配慮が、不十分であり子ども主体的に行動する充実感や異年齢児の活動、当番活動などで友だちと協力したり、一緒にしたりする活動が少ない</p>	<p>子どもが自発的に遊べるよう、玩具を出しやすくしたり、コーナー遊びが充実できるよう環境を整えたり、遊びが広がるような言葉がけを継続して行う。また子ども同士が考えて行動できるよう、グループにわかれて話す機会を設けたり、当番を決めて動植物の世話、水やり、給食の準備など、なじみの深いものから主体的な行動につながるよう準備をする。</p>

6 子どもたちの発想や思いを受け止めて、活動につながっていない	子ども達のアイデア、想いを受け止めることができるよう、話し合いを持ち、日々の保育、行事の内容についてもそれを優先した活動を行えるようにする。
---------------------------------	--

6、学校関係者評価委員会の意見

昨年度の反省をふまえて努力を重ねておられるのがみえる。課題としてあがるものが同じものも多いので、また意識して日々取り組んでいただくとさらに向上していくと思われる。